

## Bizima 読書会 「これからの生き方」

課題図書：『僕は君たちに武器を配りたい（瀧本哲史）』

### [要点]

#### 問題提起：

日本は、これから本当のグローバル競争に巻き込まれ、多くの仕事が今まで通り安泰にならない（コモディティ化）してしまう。

#### 流れ：

社会的背景の分析→資本主義で稼げるタイプの分類→個別のタイプの詳細

#### 資本主義で稼げるタイプの分離：

(P112)

#### 生き残れないタイプ

##### 1. トレーダー

商品を遠くに運んで売ることができる人

##### 2. エキスパート

自分の専門性を高めて、高いスキルによって仕事をする人

#### 生き残れるタイプ

##### 3. マーケター

商品に付加価値をつけて、市場に合わせて売ることができる人

##### 4. イノベーター

まったく新しい仕組みをイノベーションできる人

##### 5. リーダー

自分が起業家となり、みんなをマネージしてリーダーとして行動する人

##### 6. インベスター

投資家として市場に参加している人

### 第一章 勉強できてもコモディティ

1. 勉強ブームの陰には「不安解消マーケティング」がある。勉強すれば大丈夫と安易に思

うな！

2. インターネットによって、知的獲得コスト、教育コストが激減し、世界的な競争にさらされるなど、急激な社会変化に中止せよ。
3. 全産業で「コモディティ化」が進んでいる。
4. 賃金を下げないためにはコモディティにはなるな！
5. 生き残るためには「スペシャリティ」な人間になること

## 第二章 「本物の資本主義」が日本にやってきた

1. 日本にやってきている「本物の資本主義」の姿を見極めよ！
2. 一部の「頭のいい人」ではなく、「より安く、よりいい商品」を作る人間が、社会を進歩させるシステムが資本主義。
3. 資本主義には3つのモデルチェンジ、「略奪」「交易」「生産性革命」があった。
4. 日本を支えてきた「擦り合わせ産業」はもはや通用しない。
5. 「ものづくり」にはこだわるな！国に頼るな！

## 第三章 学校では教えてくれない資本主義の現在

1. 金融業界など高給で知られる社会ほど、変化が激しく、短命な商品の寿命がそのままビジネスの寿命になる。
2. 現在人気の企業でも40年後は消滅している可能性が大。就職ランキングに騙されるな！
3. 日本の国内市場は先細り間違いなし。海外で働くことも考えよ！
4. 大量のコマーシャルを打っている会社、「今流行っている」商品・サービスを売る会社には気をつけよ！
5. 生産性の低い40代、50代の社員が幸せそうにしている会社には入るな！
6. 企業を見極めるポイントは「お客さんを大切にしているか」。顧客を大事にする会社は従業員も大切にす。

## 第四章 日本人で生き残る4つのタイプと、生き残れない2つのタイプ

1. 資本主義の世界で、稼ぐことができるのは6タイプ。
2. しかしそのうちの「トレーダー」と「エキスパート」は価値を失いつつある。

## 第五章 企業の浮沈のカギを握る「マーケター」という働き方

1. マーケターとは新しくない要素の組み合わせで「差異」を作り出せる人のこと。これからのビジネスは「差異」が左右する。
2. 企業や商品で差をつけることは難しい。差をつけるには、ターゲットとなった顧客が共感できるストーリーをつくること。

3. 自分自身も「商品」。売る「場所」を変えることでまったく結果が違ってくる。
4. 「自分の頭で物事を考えない人」は、DQN ビジネスのカモにされる。

## 第六章 イノベーター＝起業家を目指せ

1. 自分の働く業界について、ヒト、モノ、カネの流れを徹底的に研究しろ！
2. イノベーションのチャンスは「今しよばい業界」にある。
3. 「TTP（徹底的にパくる）」と「逆の発想」がイノベーションを生む。

## 第七章 本当はクレイジーなリーダーたち

1. 「駄馬」を使いこなすのが本当のマネジメント。
2. クレイジーな人はコンプレックスを原動力とせよ！
3. クレイジーでない人はリーダーのサポート役になれ！

## 第八章 投資家として生きる本当の意味

1. ローリスクより、リスクがとれる範囲のハイリスク・ハイリターンを選択肢をたくさん選べ。
2. サラリーマンとは知らないうちにリスクを他人に丸投げするハイリスクな生き方。リスクは自分自身でコントロールせよ！
3. 投資は、長期的な視点で富を生み出し続けるか、人が信頼できるか、の2点で判断する。
4. 日経新聞を読んでもけっして鵜呑みにするな。
5. 機関投資家は個人投資家をカモにしている。株式投資は「損して学ぶ」つもりで挑め。
6. トレンドとサイクルを見極めることができればリターンが得られる。
7. 人を今の評価で判断しない！

## 第九章 ゲリラ戦のはじまり

1. 投資家として働くことで、世の中の見方が一変する。
2. 公開されている情報からでも、普通の人やらない「一手間」をかけることで、大きな果実を手に入れられる。
3. 大学では「奴隷の勉強」に時間をかけず、自由人になるための「リベラル・アーツ（教養）」を学べ。
4. 本当の資本主義の時代に、「ぼんとうに人間らしい関係」を探っていこう。

## 【論点】

1. 筆者の述べるような産業の「コモディティ化」は実際にどのように起きていますか。皆さんの立場（学生、各職業、年齢）などから、具体的な実感や事例の意見交換をお願いします。
2. 筆者は、「目立っている会社もダメ」「業績の伸びているように見える会社もダメ」「社員の平均年齢が高い会社もダメ」と言うが、学生はどのように会社を探せばいいのか？（現役学生が起業するとコモディティ化するという厳しい意見も・・・。）
3. 参加者の皆さんが、トレーダー、エキスパート、マーケター、イノベーター、リーダー、インベスターのどれに属するかを議論。個人の経験から、深掘しましょう。
4. これから勝てる分野である、マーケター、イノベーター、リーダー、インベスターのなかで、多くの人が最も参入可能性があるのは、どの分野か。
5. 筆者は、第8章で「投資家」について、最もページ数を多く割いて論じている。ここで言う投資家は、株式投資などの額面通りの投資家でなく、個人の生き方として様々な局面での「投資」（自己投資、就職上の選択など）も含んでいるように思われる。皆さんの経験や実感を踏まえ、これから有望な投資先について意見交換をしましょう。